

あいおい

相生小学校 学校だより

令和3年度 2月号

親子で卒業記念品制作

6年生が親子で、卒業記念品として時計を制作し、学校に寄贈しました。

今年度も昨年度に引き続き、コロナ禍で、密になることを避けるために、全校で活動したり遊んだりする機会が少なく、子供同士のかかわりがあまりありませんでした。そんな状況の中でも、6年生は最上級生として、様々な場面でリーダーシップを発揮して活躍できました。

今年は、例年やっていることを引き継いでやればよいというわけにはいかず、このコロナ禍でも、どんなことができるのかについて、6年生が親子で考え、みんなで協力して卒業記念品を制作することにしました。そして、「学校に記念になるものを残そう」と、時計作りに挑みました。6年生一人ひとりが1～24の数字の文字盤を作成し、そして時計に張り付けて仕上げました。時計は、体育館入り口に飾ります。ぜひ、ご覧になってください。



「ありがとうの会」にむけて

6年生がこの1年間、相生小のリーダーとして頑張ってくれたことに感謝する会「ありがとうの会」の準備を進めています。

1年生から5年生は、メッセージカードなどのプレゼントを作っています。また、5年生は、会の企画や進行に取り組んでいます。6年生は、招待される側ですが、在校生の一人ひとりへのメッセージや引き継いでほしいことなどをまとめています。

2月25日に行う予定です。「学校便り」を配付する締め切り日の都合により、当日の様子は、3月号でお知らせします。



1年生が制作した
お礼のメダル



2年生が描いた6年生の似顔絵

「完走証」の授与

毎年4月のなかばに名古屋から金沢までのウルトラマラソン「さくら道国際ネイチャーラン」が行われています。皆さんもご存じのように白鳥出身の佐藤良二さんが、太平洋と日本海を桜のトンネルで結ぼうと桜の植樹を続けられたことを引き継いで行われている取り組みです。

ここ2年間は、コロナ禍で大会が実施できなかったということで、それに替わ

る取り組みとして、小学生が参加できる方法で、今年度は行われました。名古屋から金沢まで走るかわりに、運動場や体育館を体育の時間などで、1周走るごとに1コマずつ進み、50周走ったら、ゴールとして行いました。「50」という数は、ネイチャーランのエイドの数にちなんだものです。相生小では、夏から秋にかけて運動場を走るなどして取り組み、ほぼ全員が完走できました。その完走賞を届けていただき、子供に渡すことができました。



西村白鳥振興事務所長(事務局)
から完走証を授与



本物と同じデザインの賞状

「八西中との交流（中1年生のみなさん、ありがとうございました）」



学校紹介のプレゼンを真剣なまなざしで見る6年生

6年生は例年、八幡西中学校に行き、中学校の施設案内や説明会を行ってまいりました。今年は、それができず、2月4日にオンラインにて行いました。

八西中の1年生が、学習・生活・部活動・行事等について、プレゼンの画面や映像にまとめて説明してくれました。

中学校に進学することを2か月後に控え、中学校生活への期待とともに様々な不安を抱えている6年生でした。中1年生が、とても丁寧にそして自分たちの経験を踏まえて説明してくれたので、安心して、中学校への進学に備えることができるようになりました。

<6年生の感想より>

- ・学習について、期末テストに出てくる科目や小学校との違いなどを分かりやすく教えていただき、ありがとうございました。
- ・絵や映像を使って、部活動や行事等を説明して下さったので、とても分かりやすくてよかったです。少し不安があったけど、楽しみになりました。

「ベルマーク」

保護者の皆様には、「PTA母親だより」でお知らせしましたように、ベルマークで、サッカーボール11個 ラグビーボール3個、競技用けん玉6個を購入することができました。

PTAの母親部の方には、ベルマークの整理や購入に向けた申告の手続き等で、大変お世話になりました。どうもありがとうございました。

購入したボール等を使って、授業を行ったり元気に遊んだりすることができています。保護者や地域の方の協力によって購入できたことに感謝しながら大切に使いたいです。

また、今後もベルマークに協力できる地域の方は、学校まで随時持参いただくと幸いです。よろしくお願いいたします。



ラグビーボールを使った
タグラグビーの授業（2年生）

「あったかい言葉かけ」運動

「あったかい言葉かけ」県民運動とは、思いやりあふれるあったかい関係を地域社会で作り出すことで、いじめを未然に防ぐことをめざした取組です。大人と子ども、そして大人同士、子ども同士が、互いに「あったかい言葉」をかけ合い、思いやりあふれるあったかい関係を地域社会において創り出せば、いじめを未然に防ぐことができると考え、この運動を県民運動として展開しています。

たった一言のあいさつや声かけ、励ましはもちろん、時には自分や仲間のことを想って、勇気をふりしぼって投げ掛けた言葉が、本人にとって「あったかい言葉」になることがあります。そんな心にしみる「あったかい言葉」に、相生小からは多くの児童と保護者が応募をしました。応募した中から、選ばれた作品を紹介します。

「ぜったいできるよになるよ！がんばって！」

わたしがとび箱がとべなかったときに、〇〇さんが何回も言ってくれました。

その後、とび箱がとべるようになったので、やっぱり友だちの力はすごいなと思いました。

3年 山下糸葉さん